

施策マネジメントシート(30年度目標達成度評価)

シート1 作成日 令和元年7月16日
更新日 令和 年 月 日

施策体系

政策名(基本方針)	3	教育の健康	施策名	10	生涯学習の推進
-----------	---	-------	-----	----	---------

施策統括部	教育部	関係課
施策主管課	生涯学習課	

1 施策の目的と指標

対象	市民、市外からの通勤・通学者	意図	生涯にわたって目標・目的を持って学習を行っている。
----	----------------	----	---------------------------

成果指標

名称		単位
A	目標・目的を持って、実際に生涯学習を行っている人の割合〔市民アンケート〕	%
B		
C		
D		

2 指標等の推移

成果指標	26年度現状値	数値区分	28年度	29年度	30年度	1年度	評価	背景として考えられること	
A	%	30.2	成り行き値	30.2	30.2	30.2	30.2	×	市民アンケートの設問を「月1回以上、生涯学習(学び:文化活動、趣味、レクリエーション活動など)を行っている人の割合」に修正したが、前年より数値の上昇は見られたものの、目標値には届かなかった。
			目標値	35.0	37.3	39.7	42.0		
			実績値	27.2	20.7	36.7			
B			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
C			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						

※【評価】 ○:目標達成 △:目標をほぼ達成(-5%) ×:目標を未達成

事務事業数・コスト			28年度	29年度	30年度	1年度
事務事業数		本数	33	22	16	
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0
		都道府県支出金	千円	12,049	814	0
		地方債	千円	0	21,700	32,100
		その他	千円	13,650	31,665	27,789
		繰入金	千円	0	0	0
		一般財源	千円	289,545	223,234	267,465
	事業費計(A)		千円	315,244	277,413	327,354
	(A)のうち指定経費		千円	50,486	16,381	20,642
(A)のうち時間外、特殊勤務手当		千円	40	0	0	
人件費	延べ業務時間		時間	14,976	7,726	3,314
	人件費計(B)		千円	55,965	30,564	13,064
トータルコスト(A)+(B)		千円	371,209	307,977	340,418	0

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

【1】施策の方針

豊かな心をもつ人を育み、生涯にわたって生きがいを見つけられる生涯学習の推進を図るため、次の方針を設定します。

- ・市民が自ら生涯学習に取り組みやすい環境づくりとしての機会を提供します。
- ・豊かな心をもつ人を育み、生きがいを見つけられる生涯学習を推進します。
- ・学校・家庭・地域が連携した、子どもたちの良好な健全育成を図ります。

【2】協働によるまちづくりの具体策(市民と行政の役割分担)

ア)市民(事業所、地域、団体)の役割

- ・市民は、市主催事業や地域主催事業等の様々な事業に参加したり、指導者や講師として関わります。
- ・市民は、学習意欲を持ち、自分のライフスタイルに合わせ自主的に取り組みます
- ・地域は、文化活動等や各種講座、学習会を開催します。
- ・団体は、自主的に活動を行います。

イ)行政の役割(市がやるべきこと)

- ・市は、市民の変化する多様なニーズを捉えた各種講座・教室等の開催と支援を行います。
- ・市は、活動拠点となる各施設の計画的な整備と適正な管理運営を行います。

【3】成果指標の目標設定とその根拠(上段)・成果指標の測定企画(下段)

A	目標・目的を持って実際に学習を行っている人の割合について、成り行き値は、平成26年度の現状値に基づき、今後、高齢化による余暇時間を利用した学習やスポーツ、ボランティア活動が増えると考えられますが、社会情勢の不安定化、家族介護等の増加によるマイナス要因もあることから、平成26年度の実績値で推移するとして平成31年度を30.2%に設定しました。目標値は、市民ニーズを反映した主催講座及び市民大学、女性セミナーの内容の充実、図書館活動の啓発に努めることで、機会の提供拡大を図って行きますが、マイナス要因として主催講座が施設の規模等に制約されることで、大幅な増加は見込めず、現状では、35%前後を推移していることから平成27年の目標値として設定していた42.0%を平成31年度に継続して設定しました。
B	
C	
D	

【4】施策の現状と今後の状況変化

・今後、高齢化が進むことや、市民ニーズを検証し内容の充実や機会の提供を増やすことで、学習に親しんだりボランティア活動に参加できる人が増える予想されます。反面、高齢化が進むことで、家族介護等も増えることから余暇時間の減少も考えられます。
 ・各施設の老朽化が進み、維持管理費の増加が考えられる。特に野々島公民館、黒石市民センターは、昭和48年に開館しており、耐震化もされていないことから計画的な建替えを行います。
 ・司書業務の委託により、社会情勢の変化に対応したレファレンス※業務等図書活動の充実が求められます。
 ※レファレンス・・・図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が情報そのものあるいはそのために必要とされる資料を検索・提供・回答することによってこれを助ける業務

【5】この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？

(平成30年度(平成29年度振り返り)の施策評価における議会意見)
 ①超高齢社会を見据え、生きがいにつながる生涯学習の推進に努めること
 ②公民連携、外部委託を通じ、行政はマネジメントに専念すること

(平成30年度(平成29年度振り返り)の施策評価における総合政策審議会意見)
 ①市民ニーズを捉えた講座を増やすこと
 ②図書館にカフェ等くつろげるスペースの設置を検討すること
 ③地区公民館における生涯学習活動への支援を検討すること

4 施策の評価

【1】 施策の振り返り(施策の方針、経営方針の達成度等)

※ 経営方針からの振り返り、貢献度評価の上位の事務事業を記載

(1)平成30年度の経営方針からの振り返りは、以下のとおり。
 ①「生涯学習施設の適正な維持管理に努めるとともに、老朽化した施設の計画的な整備に取り組む。」については、予想しない修繕が多く発生したが、適宜必要な施設修繕にて適正な維持管理ができた。老朽施設については、機能低下が見られる設備等の実態に合わせ、計画的な保全に努めていく。
 ②「各種講座や教室等については、市民ニーズの的確な把握と民間ノウハウに関する情報収集に努め、内容の充実と効果的な広報を実施していくとともに、類似講座の整理統合に向けた調整を進める。」については、市民ニーズと収集した情報を踏まえ、前期・後期、市民講座等を実施した。新規の講座の開設など、新たに学習する機会の提供に努めた。
 ③「指定管理制度を採用した図書館について、経済性と効率性を考慮しながらサービス面や運営内容の検証を行う。」については、指定管理者と毎月モニタリングの実施と年間を通じた実績報告を行ない、サービスや運営について検証を行った。利用者アンケートを通して、好評の声も多く聞かれた。マンガミュージアムとの連携が今後の課題。
 ④「自治公民館や地域コミュニティ活動の支援や情報の共有に継続して努める。」については、公民館の修繕等の建設費補助金、備品購入補助金を交付し、環境づくりなどハード面の支援と、公民館やコミュニティ活動に対する活動補助金を交付するソフト面の支援を行った。特にソフト面の支援については、今後は内容の充実に向けて、更に情報発信、助言等を行なっていく。
 ⑤「西合志中学校で4年目を迎える地域未来塾に関しては、過去3年間の成果や課題を整理し、他の中学校への普及について引き続き検討を進める。」については、過去の成果と実績をもとに、より充実した内容の地域未来塾が実施できた。学習支援員の人材確保には課題を残し、現時点では他の中学校への普及には至っていない。

(2)事務事業貢献度評価の結果では、平成30年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、生涯学習講座開催事業(趣味講座)があげられ、貢献した事務事業として、図書館管理運営委託事業、マンガミュージアム維持管理事業があげられた。

【2】施策の課題

- ・学習機会の提供では、施設使用の制約もあるが、講座・教室によっては募集人員に達していないものがあり、継続、休止、廃止の判断が難しい状況です。
- ・身障者パソコン教室など、受講者が少数の講座を開設が必要です。
- ・施設の老朽化により、雨漏れ等改修修繕に必要な経費の増加も予想されます。また、計画的に長寿命化や費用対効果を含めた改修、更新の検討が必要です。
- ・学校・家庭・地域が連携した子ども支援の取組みに向けた人材育成、機会の提供が必要です。

5 施策の30年度結果に対する審査結果

① 政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて 7月22日・23日)

- ①引き続き生涯学習に取り組みやすい環境(ハード・ソフト)づくりに努めること。
- ②市民ニーズに合った各種講座、催事などを工夫すること。
- ③新たなコミュニティ活動の取り組みに努めること。
- ④新たな生涯学習指導者の育成・人材確保を図ること。

② 総合政策審議会での指摘事項(令和元年8月8日、20日、29日まとめ)

- ①みんなが参加したいと思う講座にするため既存の講座の在り方を見直すこと
- ②市民に親しまれる旧西合志庁舎の利活用を検討すること
- ③子どもの未来につながる生涯学習を推進すること

③ 議会の行政評価における指摘事項(令和元年9月10日)

- ①公民連携、外部委託を通じ、行政はマネジメントに専念すること
- ②講座等について、交通手段を含め参加しやすい工夫を行うこと
- ③超高齢社会を見据え、市民の要望を取り入れ、生きがいや楽しみを見つけられる生涯学習の推進に努めること

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 令和2年度合志市経営方針(令和元年9月27日)

- ①生涯学習施設の適正な維持管理に努めるとともに、指定管理者制度の活用など公民連携した管理運営体制について具体的に取り組む。
- ②各種講座や教室等については、市民ニーズを的確に把握するとともに、民間ノウハウを活用するなど内容の充実を図る。また、効果的な広報を実施し、市民が参加しやすい環境づくりに取り組む。
- ③地域コミュニティ活動(栄コミュニティ、地域学校協働活動)の推進を図るとともに、人材の育成および確保に努める。